芝地区公式SNSフォローしてね！

ボランティアの
編集委員が
つくっています

芝地区地域情報誌

しばタグ

SHIBA-TAG

VOL.73

2026年3月発行

発行部数　31,500部

発　行
港区芝地区総合支所協働推進課
〒105-8511 港区芝公園1-5-25（港区役所2階）
TEL 03-3578-3192　FAX 03-3578-3180

バックナンバーをWebにて公開中
芝 情報誌　検索

芝の古刹 Ancient Temple in Shiba

廣度院（こうどいん）の「練塀（ねりべい）」が語る 徳川の威信と家族の物語

廣度院を囲む練塀

東京タワーの足元、都会のオアシス・芝公園。かつてこの一帯はすべて増上寺の広大な境内でした。近代的なビル群の谷間に、都会の喧騒（けんそう）を忘れさせるような、奇跡的に江戸の風景を留める場所があります。増上寺の「塔頭（たっちゅう）※」と廣度院（こうどいん）を取り囲む、土と瓦が織りなす美しい縞模様の壁、「練塀（ねりべい）※」です。

西城千珠副住職

練塀は単なる遺構ではありません。戦火と都市開発の波を越え、父から娘へ、そして地域へと受け継がれた「不屈の祈り」そのものです。廣度院の副住職・西城千珠（さいきせんじゅ）さんに、この壁と家族の物語を伺いました。

焦土（しょうど）※に見た夢と、学問による復興

廣度院の歴史は古く、増上寺とともに室町時代の明徳4年（1393）にさかのぼります。徳川将軍家の菩提寺（ぼだいじ）・増上寺が芝の地で威容（いよう）を誇った江戸時代、この練塀は広大な境内を守る「砦（とりで）」として、また聖域を分かつ厳格な結界として存在しました。

しかし、先の大戦がすべてを変えました。豪華絢爛（けんらん）な御廟（ごびょう）※も五重塔も焼失。廣度院も堂宇（どうう）※を失いましたが、表門と練塀だけが、炎の中で黒く焼けただれながらも立ち尽くしていました。

「祖父は、トタンで囲った門の中で家族を守り抜き、最後は栄養失調で亡くなりました」と西城さんは語ります。

跡を継いだ父・峰島旭雄（みねしまきょくゆう）住職（25世住職）は、戦後、練塀の門を寂しげにくぐる祖父の夢を何度も見ていたと言います。父は「学びの場」であった寺の原点に立ち返り、寄付に頼るのではなく、自らの知識と教鞭（きょうべん）で得た収入で寺を再興する道を選びました。静寂の中、父の膝の上で、一心に調べ物をして原稿と向き合うその姿を見て育った西城さんにとって、練塀は父が語る「増上寺の歴史そのもの」であり、家族の暮らしを守り抜いた証でした。

しばタグ 目次 VOL.73

- [芝の古刹] 廣度院の「練塀」 P1
- [しばあるき] 冬の芝、あたたかい寄り道（浜松町～芝） P3
- [Illuminato People] 宮崎刀史紀さん P4
- [Shiba Topics] m～m開館2年前プロローグ・イベント P5
- [ばるーん] 男性も楽しくスキンケアを! P6
- [芝の家・ちゃぶ台日誌] 春編 P6
- [町会・自治会TOPICS] 芝西応寺町会 P7
- 第21回「ふれ愛まつりだ、芝地区！」を開催します P7
- 芝会議って何? P8
- 芝地区地域情報誌の編集委員募集中! P8

MINATO CITY

廣度院表門

大門を救った「知恵」の壁

高度経済成長期、道路拡張計画により増上寺のシンボル「大門」と廣度院の練塀に撤去の危機が迫ります。

この時、父・旭雄住職は一歩も引かずに動きました。「練塀を国の登録有形文化財にすれば、手出しはできない」。その機転は、練塀を守っただけでなく、道路拡張そのものを事実上不可能にし、結果として「大門」の存続をも決定づけました。かつて寺を守るための物理的な防御壁が、現代においては法律という盾を使って、芝の未来へ続く景観だけでなく、まちの歴史や文化をも守り抜いたのです。

「江戸城の壁」であることの証明

令和に入り、隣地の再開発に伴い、再び練塀に危機が訪れます。しかし、これが驚くべき発見につながりました。

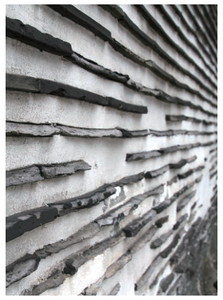
「この壁は、熱田神宮にある『信長塀※』の系統なんだ」――生前、父はそう語っていました。その言葉通り、解体調査によってあらわになった内部構造は、単なる土壁ではなく、瓦と土が幾層にも重なり合う極めて堅固なものでした。

それは、発展系である江戸城の構造と酷似しており、徳川幕府の棟梁・甲良家が手掛けたものと同様の精緻な工法であることが判明したのです。「関東大震災でも壊れなかった」という父の確信は、科学的に証明されました。空襲の焼夷弾で赤茶けた瓦の奥には、数百年もの間、崩れることなく層を成してきた職人たちの技と知恵が眠っていたのです。

こうした江戸城の練塀と同様の内部構造が、確認できる形で現存している例は全国的に唯一です。廣度院ではその学術的に貴重な断面の特別公開や講座なども行われており、本物の歴史を見学できる点では非常に特別な場所といえるでしょう。

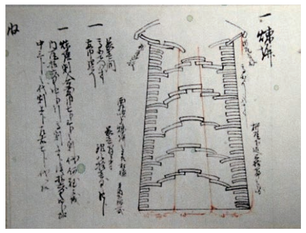
増上寺から見た廣度院。増上寺側と参道側の練塀が残っています

本堂に掲げられている「山号：三縁山」「院号：廣度院」の扁額



近づいて見ると、練塀の構造がよく分かります

練塀の内部構造



『江戸城造営関係資料集・塗師方壁方瓦方当時物幷本途内訳』に描かれた練塀の断面図

未来へ埋め込む「宝物」

「父が守れと言った意味を、今ようやく理解しました」と話す西城さん。現在、増上寺の協力を得て「練塀勉強会」を定期的に開催しています。

建築家や歴史研究者、そして地域の人々が集い、毎回驚くような新発見が生まれています。「瓦と土が織りなす内部構造は、息をのむほど美しい層を描いていました」。崩したはずの壁の中から現れたのは、江戸の美意識そのものでした。

閉じられた防御壁から、開かれた交流の場へ。父が守り抜き、娘が光を当てたこの壁は、過去の記憶を封じ込めた巨大な「タイムカプセル」です。その扉は今、多くの人々の手によって少しずつ開かれ、芝のまちに新たな物語を紡ぎ始めています。

取材：森 明／早川 由紀　　文・写真：早川 由紀

歌川廣重の浮世絵「江戸名所　芝増上寺」。三解脱門から立ち並ぶ練塀と大門。左一番手前が廣度院　（出典：西城千珠所蔵）

用語解説

※**塔頭**：大寺院の敷地内にある小寺院や別坊のこと。
※**練塀**：土と瓦を交互に積み重ねて固めた塀。耐久性が高く、防火・防弾の役割も果たした。織田信長が桶狭間の戦勝礼として熱田神宮に奉納した『信長塀』や石清水八幡宮の『信長塀』の系統とされる。
熱田神宮、岩清水八幡宮の「信長塀」……分類上は「築地塀」だが、土の中に瓦を層状に挟み込むことで、鉄砲の弾も通さない強度と耐水性を誇る。最初から表面の土が剥がれ瓦のしま模様が見えるように作られている。
廣度院の「練塀」……廃瓦と粘土を積み上げた純粋な練塀。信長塀以上に瓦がびっしりと詰まった幾何学的な断面をもち、徳川幕府が用いた、江戸の工法を今に伝える都内でも希少な文化財。
※**焦土**：戦争や火災で焼け野原になった土地のこと。
※**御廟**：貴人の霊を祀る建物。ここでは増上寺にあった徳川将軍家の墓所を指す。
※**堂宇**：寺院の建物、お堂のこと。

INFORMATION

浄土宗 三縁山 廣度院　芝公園1-8-16
https://neribei.com/

しばタグ編集委員おすすめの

しばあるき

Photo Essay in Shiba

冬の芝、あたたかい寄り道

浜松町から芝へ。冷たい風の中を歩きながら、区の施設に立ち寄ってみる。かつて学び舎があった場所、歴史の痕跡が残る通り、地域の人が集うカフェ。外は寒くても、芝のまちには思いがけない“あたたかさ”があった。

学びの跡地で、静かな時間に触れる

浜松町方面から歩いていると、「福澤近藤両翁学塾跡」と刻まれた石碑が目に入る。このあたりは、かつて慶應義塾が置かれていた場所だという。現在は港区立エコプラザとなり、環境学習や地域活動の拠点になっている。

エコプラザは、地球環境や持続可能な暮らしについて学び、考えることができる区の施設だ。館内には環境をテーマにした展示やワークショップスペース、そして図書コーナーがある。この図書コーナーには、環境や社会、暮らしに関する本が1500冊以上そろっているという。

棚を眺めていると、専門書だけでなく、子ども向けの絵本や写真集も並び、世代を問わず手に取りやすい構成になっていることがわかる。木の机と椅子が並ぶ空間は、どこか教室のようで、懐かしくあたたかい。静かにページをめくる人の姿を見ていると、この場所が単なる展示施設ではなく、日常の中に溶け込む“学びの拠点”なのだと感じられる。

外の冷たい空気とは対照的に、ここには静かでやわらかな時間が流れている。歴史ある土地で、いまもなお「学ぶ」という営みが続いていることに、少しうれしくなった。

「福澤近藤両翁学塾跡」の石碑

かつての学び舎を伝えるエリアの風景（エコプラザ）

コットンの綿繰り展示コーナー

エコプラザ館内の木の机と椅子

港区に関する資料や展示スペース

歴史の道を抜けて、地域のぬくもりへ

エコプラザを出て3分ほど歩くと、神明いきいきプラザに着く。途中には、赤穂藩森家上屋敷跡があったことを伝える掲示板もあり、何気ない道のりの中でふと歴史に出会う。

一階のカフェスペースは、地域の人の交流の場になっている。この日はバレンタインデーにちなみ、オペラケーキとカフェモカを400円で楽しめた。窓際に腰を下ろしていると、同施設で講座を担当しているという方が声をかけてくださった。講座の話や芝のまちのことを自然に語り合う。初対面でも会話が弾む、そんなあたたかくゆったりとした空気がここにはある。

帰り際、配架されていたレシピカードを1枚持ち帰った。今夜はそこに載っていたサバの生姜照りソースを作ってみよう。散歩の時間が、そのまま日常へとつながっていく。

まだまだ寒い季節。けれど芝のまちは、外を歩くだけでなく、中に入ることであたたかさに出会える。冬の芝は、思っているよりやさしい。

歴史を伝える掲示板（赤穂藩森家上屋敷跡）

交流の場となっているカフェスペース

神明いきいきプラザ外観

持ち帰ったレシピカード

バレンタイン限定のオペラケーキとカフェモカ

取材・文・写真：白坂 亜優奈

Illuminato People

生まれたての劇場をみんなで世話をして、育てていける場所にしていきたいですね。

みなと芸術センター開館準備室 室長
宮崎刀史紀（とし き）さん

イベントで、カニの人形をもつ宮崎さん。m～m開設の準備に追われながらも楽しんでいる様子から、m～mへの期待が高まります

令和7年（2025）夏に、みなとコモンズ（旧三田図書館）で行われたプレ事業「夏休み砂浜開放」。砂浜をイメージしたプレイスペースです

“文化のジム”を目指す真摯（しんし）な姿勢

「人が頻繁にジムに身体を鍛えに行くように、定期的に芸術や文化に触れ、感情をゆさぶり、心に刺激を与えたり、整えたりするためにm～m（むーむ）に出かける。そんな、港区にある身近な“文化のジム”のような存在を目指したいのです」

港区立みなと芸術センターm～mの開館まで2年をきった今、準備室長の宮崎刀史紀さんに話を伺った際、この言葉が特に印象に残りました。そして、インタビューを通じて感じたのは、その語り口の穏やかさです。一つひとつの質問に対し、これから生まれるm～mの姿を思い描きながら、真摯に向き合い、言葉を探しながら丁寧に応じてくださる。その中に、時折ユーモアが差し込まれています。

予期せぬことが連続する劇場運営を楽しむ余裕

宮崎さんは大学時代より、文化政策やアートマネジメント分野を専門とし、劇場運営や文化・芸術政策の調査研究に携わってきました。文化芸術を「つくる側」でも「鑑賞する側」でもない立場から、理論や研究を軸に、文化芸術の仕組みそのものに関心を持ってこられたそうです。そうした宮崎さんは、とある縁をきっかけに劇場運営の現場へと足を踏み入れることになりました。KAAT神奈川芸術劇場とロームシアター京都に、いずれも開館準備の段階から携わり、行政が掲げるコンセプトを読み解きながら、作品を生み出す側ではなく、仕組みや環境を整える側として立ち上げを行いました。

そして現在、港区のみなと芸術センター開館準備室長として、文化芸術を日常の中に浸透させるという構想のもと、m～mの開館準備に取り組んでいます。正式に準備室が発足してから、取材時点で約7カ月。決して長いとは言えない期間ですが、その間に経験した出来事は少なくありません。施設活用を検討する中での設備上の制約、想定外の調整、細かなトラブル。いわゆる「不測の事態」は、準備段階でも、それが“日常”だと言います。

「準備期間で、特に印象に残っている出来事はありますか?」の問いに対して、宮崎さんは笑ってこう語ります。

「劇場という空間は、日々予期せぬ何かが起こる場所。計画通りに進まないことを前提に、目の前の出来事に常に対応し続けなければなりません。でも、劇場の人間だからかもしれませんが、不測の事態があると、むしろ燃えるところがあるのです」

その言葉には現場に身を置いてきた人ならではの力強さがにじみます。何が起きるかわからないからこそ、考え、工夫し、次の一手を打つ。その積み重ねが、場を形づくっていくのでしょう。

多様な人の日常の中に溶け込む芸術施設に

みなと芸術センター開館準備室のスタッフの皆さん。いきいきとした笑顔が、m～mオープンへの期待を膨らませてくれます（撮影:平岩亨）

港区は、多くの人が行き交うまちです。また、多くの国が大使館を構え、外国人居住者も多く、多様な文化背景が共存しています。「多様性のまち」と語られることも少なくありません。しかし宮崎さんは、多様性が“ある”ことと、それに実際に“触れている”ことの違いを静かに指摘されます。

「多様性はただそこに存在するだけでは届きません。通り過ぎるだけでは、自分の中に根づかないのです」

m～mが目指すのは、単に舞台芸術作品を鑑賞するための施設ではなく、多様な人と文化が具体的に出会い、関係を結ぶことのできる「出会える文化芸術施設」です。宮崎さんは、鑑賞するだけでなく、参加し、語り合い、創造して、次第に文化が生活の中に入り込んでいく場をつくろうとしているのです。

みんなのアイデアを形に

宮崎さんが語る「文化」は、完成された価値や正解としてそこに置かれるものではありません。「文化という言葉が、文に化けると書かれるように、人が関わり続けることで、意味や姿を変えながら更新されていく営みだと考えます」と、宮崎さん。

最後に、区民へのメッセージを伺いました。

「今はまだ劇場としては胎児というかお腹の中にいる状態。これからちょっとずつ大きくなって誕生していく。生まれたての劇場をみんなで育てていける場所にしていきたい。そして少しでも多くの方の想いをかなえていきたい。何か思いついたらどんどんアイデアを聞かせてください」

m～mは、その営みが日常的に起こる“文化のジム”となる施設。開館して完成する施設でもありません。開館後も多くの人が関わり続けることで、少しずつ姿を変え、育っていく場所なのです。今後の宮崎さんの手腕に期待します。

取材・文：高橋 直子

芝の話題いろいろ Shiba Topics

Report

港区立みなと芸術センターm～m（むーむ）開館2年前プロローグ・イベント

人・物・文化が行き交う港区。その“港の玄関口”ともいえる浜松町に、人の力でまちを変えていく新たな芸術の拠点が誕生しようとしています。それが、令和9年（2027）11月に開館を控えた、港区立みなと芸術センターm～mです。令和7年（2025）11月30日に、ニッショーホールで開催された「開館2年前 プロローグ・イベント」のトークセッションに参加しました。

最初にみなと芸術センター開館準備室長の宮崎刀史紀さんより、施設のコンセプトについて説明がありました。みなと芸術センターの愛称であるm～mは、公募によって選ばれました。その背景には、港（minato）の“m”と私（me）の“m”、地域と私がつながり、東京湾に面した港区の情景を表す「波」を介して、人と人が手を取り合う場でありたい、という想いが込められているそうです。一方で、トークセッションに登壇した愛称選考委員の箭内（やない）道彦さんは、「人それぞれが、m～mを見て、聞いて、感じたままのアート感覚で、このみなと芸術センターと付き合ってほしい」と語ります。m～mという愛称を聞いて、フムフム…といった余韻を感じるのもよく、名称や意味を一義的に定めるのではなく、受け手一人ひとりの感性に委ねる姿勢が印象的でした。

私も、初めてm～mという名を耳にしたときは、正直なところ「???」という戸惑いがありました。しかし、何度かその名前に触れ、コンセプトを聞くうちに、今ではまだ見ぬこのみなと芸術センターのあり様と、不思議なほどの一致感を覚えるようになりました。そう、案ずるなかれ。m～mはきっと、「特別な場所」であると同時に、「いつのまにか皆の隣にある存在」として、区民の日常に溶け込んでいくのだと思います。

港区が平成19年（2007）から構想を重ねてきた港区立みなと芸術センター。2年後の開館に向けて準備室の取り組みが本格化し、構想は段階的に具体化しています。港区に生まれようとしている、私たち港区民にとって身近な存在となるm～m。その始まりを、一人の区民として関わっていきたいと感じたイベントでした。

取材・文：高橋 直子

▲m～mの外観イメージ。みなと芸術センター開館準備室長の宮崎刀史紀さんが施設の説明をされました
※パース図はイメージです。実際の施設と異なる場合があるのでご了承ください。

▲トークセッション（上）の登壇者は、俳優のサヘル・ローズさん、クリエイティブディレクターの箭内道彦さん、港区長の清家愛さん。モデレーターはみなと芸術センター開館準備室プログラム・ディレクターの相馬千秋さん。トークの後、ピアノ演奏とドローイングのコラボレーション・パフォーマンス（下）が行われました

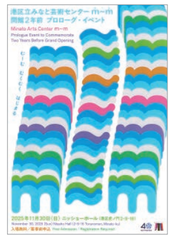
◀演劇ワークショップの様子（同時開催）

▲VRエンターテインメントの様子（同時開催）

▲ウォークの様子（同時開催）

▲レゴ®ブロック・ワークショップの様子（同時開催）

▶開館前2年前プロローグ・イベントのチラシ。m～mの文字が印象的にデザインされています



INFORMATION

港区立みなと芸術センター　建設地　浜松町2-3-5（3～9階）
https://www.minatoartscenter.jp/

令和9年（2027）11月開館予定

ホームページ　MINATOARTSCENTER

Check it out!!

生涯学習センター

ばるーん

子どもから大人まで
楽しく学べる！

男性も楽しくスキンケアを!

港区立生涯学習センター（ばるーん）では、多様な年代の方々に学びの場を提供しています。本誌72号でお知らせした、令和7年（2025）12月11日に開催された、ばるーんゼミナール教養編「鏡の前で心も整う。メンズスキンケア習慣」を取材しました。

仕事帰りの20代～70代の皆さんが参加され、第1部では、講師の伊藤聡（いとうさとし）さんの講義に熱心に耳を傾けていました。会社員でライターの伊藤さんの著書にも、ある日電車の窓に映った自分のやつれた顔に驚愕（きょうがく）し、スキンケアに目覚めたことから人生が変わり、その楽しさを世の男性たちにも伝えたいという想いが綴られています。

第2部は、参加者全員でスキンケアの手順を学び、実体験するという実践コーナー。まずは、洗顔料をネットで泡立てて顔を洗う→化粧水で整える→美容液（シミの気になる人はビタミンC入りがおススメだそう）→乳液、クリーム、日焼け止めなどの順で塗るという体験に、参加者の皆さんは、「初めての感覚だ」「髭剃り後がさっぱりする」「ちょっとベタベタするけど気持ちいい」などの驚きの声が上がっていました。体験後は、皆さんの肌が明るくなり、表情もイキイキとされていました。

女性の私も、今さら聞けないスキンケアの基本をおさらいできて、大変有意義なひと時でした。

伊藤さんの講義。スキンケアを通じて、身体といっしょに心のケアの重要性を強調されました

実践コーナーの様子。洗顔料をネットで泡立てて顔を洗うなど、皆さん、初めての体験にとまどいつつも、和やかな雰囲気になりました

男女を問わず、スキンケアを通して自分と向き合い、その日の肌の調子などから体調の変化を気にかけることはとても大事なことだと改めて感じました。

また、男性には、自分を粗末にしても何かやるとか、やせ我慢するのが格好いいという弱音をはかない文化が根強く残っていて、女性よりもいろいろなことを一人で抱え込み、孤立しがちなように感じます。いつかは誰かのお世話になったり、最後は介護を受けたり、『ケア』と無関係ではありません。互いに弱い部分も出せる友だちを作ることが重要で、その第一歩として、自分を“見つめ直す”スキンケアが男性にも大切なのでは?と感じました。

取材・文：谷田部 尚子

INFORMATION

港区立生涯学習センター（ばるーん）
新橋3-16-3
TEL 03-3431-1606　MAIL baloon@kissport.or.jp
https://www.kissport.or.jp/sisetu/shogaigakusyu/guide/

芝の家・ちゃぶ台日誌 春編

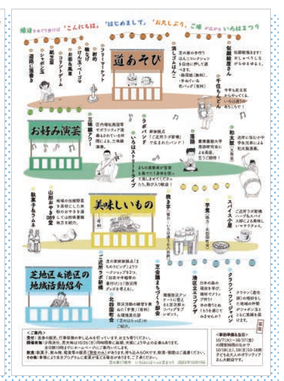
どなたでも自由に出入りできる「まちの交流拠点」芝の家。日々、近所の方から遠方の方まで、年代も0歳～学生～シニア世代の方まで、多種多様な方が立ち寄ります。駄菓子の販売もあります。おもちゃで遊んだり、紙や布でものづくりをする方、宿題をしたり読書をする方、思い思いの過ごし方をしながら、ゆるやかな交流が生まれています。

今回は年に一度の芝の家主催のおまつり「いろはにほへっと芝まつり」（令和7年（2025）10月19日開催）の紹介です。

17周年となる今年のテーマは“縁日を めぐり歩けば「こんにちは」「はじめまして」「お久しぶり」ご縁が広がる いろはまつり”。ご近所の方、来場する皆さんとの出会い、再会、ふれあい、おしゃべりがあちこちで生まれればいいなあという想いを込めてのテーマです。

準備の段階から大勢の方に協力していただき、芝の家らしいおまつりを開催することができました。お手伝いいただいた皆さま、ありがとうございました。

今年度は芝の家に関係された皆さまのブースも増え、大賑わいでした。ご紹介できなかった皆さま、ごめんなさい。



毎年大人気の町会の皆さん手づくりの芋煮

今年も子どもたちが大活躍。駄菓子屋さん

大学生の皆さんが一緒に盛り上げてくれたお面屋さん

慶應落研が復活！落語&講談

三味線やバンドで音楽も盛り上がりました。今年はかっこいい小学生ギタリストも参加

その他、恒例の紙芝居や落書きなど

「ちゃぶ台日誌」は、芝の家ホームページにて日々の様子やイベントのお知らせを投稿するブログのタイトル。ホームページも合わせてご覧ください。

INFORMATION

芝の家　芝3-26-8　TEL 03-3453-0474
〈開室日時〉火～金 11:00～16:00
土※ 12:00～17:00
※芝のはらっぱ活動日を除く
〈休室日〉　日・月・祝
http://www.shibanoie.net

開室時間は変更が生じる場合もあります。最新の情報はホームページや掲示板をご覧ください。

芝の家は、芝地区の地域事業「地域をつなぐ!交流の場づくりプロジェクト」の拠点。港区芝地区総合支所と慶應義塾大学の協働で始まり、事務局スタッフとボランティアスタッフが日々の場を運営しています。姉妹拠点「ご近所ラボ新橋」（港区新橋6-4-2）と合わせてお気軽にお立ち寄りください。

文：芝の家・芝地区総合支所協働推進課

町会自治会 TOPICS

祭

伝統の山車を修繕し、祭り文化を未来へ

芝西応寺町会

芝西応寺町会は、港区芝二丁目に位置し、芝大神宮を産土神とする歴史ある町会です。大正13年（1924）に結成され、地域の安全・防災活動や祭礼行事を通じて、住民同士の交流を深めています。

町会の象徴ともいえるのが、芝大神宮例大祭で活躍する神輿と山車です。特に山車は、将来の祭りの担い手となる子どもたちが引き、親子で参加する祭りの中心的存在であり、地域の絆を育む大切な役割を担っています。しかし、長年の使用により太鼓や飾り網、引き綱などが傷み、安全性に不安がありました。そこで令和7年度（2025）、宝くじの助成金を活用したコミュニティ助成事業により修繕を実施しました。

修繕では、太鼓の張替や飾り網の補修、引き綱の交換などを行い、山車は美しさと安全性を取り戻しました。これにより、祭りの準備や運行がより安全でスムーズになり、参加者が安心して楽しめる環境が整いました。地域の子どもたちにとっては、伝統文化に触れる貴重な機会であり、世代を超えた交流の場として、地域コミュニティの活性化に大きく寄与します。

芝西応寺町会では、こうした取組を通じて、伝統文化を守りながら、地域のつながりを大切にしていきます。また、これからも皆さまとともに、地域の明るい笑顔・安全・安心を目指します。

地域の皆さまの協力と宝くじの助成により、伝統文化を次世代に引き継ぐことができました。今後も地域の絆を深める活動を続けていきます

町会長の
河村和美さん

子どもたちに受け継がれる伝統の山車引き

長年の祭礼を支えた木組みと装飾が、歴史を物語っています

太鼓、引き綱、諫鼓鳥（かんこどり）が丁寧に修繕され、鮮やかな姿に

この修繕は、一般財団法人自治総合センターのコミュニティ助成事業による宝くじの助成金を受けて実施しました。
コミュニティ助成事業は、地域のコミュニティ活動の促進と健全な発展を図るとともに、宝くじの社会貢献広報を目的としています。

第21回「ふれ愛まつりだ、芝地区!」を開催します

このおまつりは、芝地域の交流を図ることを目的として毎年開催しています。地域の企業、商店会など約50の団体の活動を紹介する「地域ふれ愛マーケット」と、地域の保育園や学校などの日頃の活動発表の場として約20団体が歌やダンスなどを披露する「地域ふれ愛コンサート」を楽しんでいただけます。会場には毎年5,000人近い方々が来場します。

また、来年度は港区政80周年を迎えることから、いつも以上に来場者の皆さまが喜ばれるようなイベントになるよう現在準備中です。皆さまのご来場をお待ちしております。

前回の地域ふれ愛コンサートの様子

前回の地域ふれ愛マーケットの様子

- **●日時**　6月13日（土）午前10時～午後3時（小雨実施・荒天中止）
- **●場所**　区立芝公園（芝公園4-8-4）
- **●問い合わせ先**　芝地区総合支所管理課管理係　TEL:03-3578-3194

芝会議って何？

芝会議とは、芝地区をよりよいまちにするためのアイデアを地域の皆さんが持ち寄る「**自由な議論の場**」です。
その芝会議の中の3つの部会についてご紹介します。

1. まちの魅力発掘部会

芝地区の魅力を発掘し、地域の皆さんに伝えて地域で共有し、さらに新たな地域の魅力発掘に結びつけます。地域の歴史や自然が形成している芝地区の魅力を伝えるツアーや座学を実施し、芝地区内外に情報を発信しています。

●活動日
原則、毎月第2火曜日の18:00～20:00
年数回、土日イベントあり

●活動場所
芝コミュニティはうす（芝5-13-15 芝三田森ビル2階）

2. まちづくり部会

芝地区を誰もが安全で安心して住み続けることができるまちにするため、海の環境汚染や地球温暖化の抑制などの環境に関する課題や防災など、芝地区のまちづくりについて検討し、芝地区クリーンキャンペーンなどで啓発活動をしています。

●活動日
月1回、18:30～19:30
年数回、土日イベントあり

●活動場所
神明いきいきプラザ（浜松町1-6-7）

3. 地域コミュニティ部会

芝地区のコミュニティ意識を醸成し、多様な人々が協働して地域の課題解決に取り組む仕組みづくりを考えています。地域住民の世代を超えた交流や地域の誰もが安心して暮らせる地域づくりを目指して、地域でできることを検討し活動しています。

●活動日
月1回、18:30～20:00
年数回、土日イベントあり

●活動場所
港区役所（芝公園1-5-25）

芝地区MAP

1～20 旧町名由来板の設置場所

1 廣度院 → P1、P2
2 福澤近藤両翁学塾跡／港区立エコプラザ → P3
3 赤穂藩森家上屋敷跡／神明いきいきプラザ → P3
4 港区立みなと芸術センター「m～m」 → P4、P5
5 生涯学習センター（ばるーん） → P6
6 芝の家 → P6
7 芝西応寺町会 → P7

Follow me!

芝地区総合支所 公式SNS
Instagram
@minato_shiba_official

40 みんなと結ぶ「へいわ」～港区平和都市宣言40周年～

あなたも「しばタグ」の紙面を作ってみませんか？

芝地区地域情報誌の編集委員募集中!

芝地区地域情報誌「しばタグ」は、企画から取材・原稿作成までをボランティアの編集委員が行っています。普段なかなか見せてもらえない所を取材することもあります。現在、誌面制作をお手伝いいただける編集委員を募集しています。編集会議は、和気あいあいとした自由な雰囲気です。「情報誌を作るのって難しそう…」――大丈夫です。ほかの編集委員や専門スタッフがサポートしますので、未経験でもぜひご応募ください。

こんな人にオススメ

- 人と話をすることが好き
- 写真を撮るのが好き
- もっと地域のことを知りたい
- みんなに紹介したい場所がある
- 新しいことを始めたい
- 地域の方と交流を深めたい　など

見学だけでもOK!
ご参加お待ちしています

●問い合わせ先：芝地区総合支所 協働推進課　TEL 03-3578-3192
メール

各支所では、地域情報誌（情報紙）を定期的に発行しています。

支所内各戸配布のほか、港区立図書館（高輪図書館分室を除く）・各いきいきプラザで閲覧可能です。

- 芝地区総合支所「しばタグ」
- 麻布地区総合支所「ザ・AZABU」
- 赤坂地区総合支所「MYタウン赤坂・青山」
- 高輪地区総合支所「みなとっぷ」
- 芝浦港南地区総合支所「べいあっぷ」

港区芝地区総合支所協働推進課
〒105-8511 港区芝公園1-5-25（港区役所2階）
TEL 03-3578-3192　FAX 03-3578-3180
https://www.city.minato.tokyo.jp
区ホームページ

●編集委員……伊藤早苗／菊池弓可／桑原庸嘉子／小坂靖浩／白坂亜優奈／高橋直子／千葉みな子／中原たづ子／早川由紀／逸見チエコ／森明／谷田部尚子（敬称略）
●配布場所……芝地区総合支所内の地域（芝、海岸一丁目、東新橋、新橋、西新橋、三田一～三丁目、浜松町、芝大門、芝公園、虎ノ門、愛宕）の方にお届けしているほか、地区内各施設などで配布しています。

区役所のサービスや施設・催しの案内
みなとコール
TEL 03-5472-3710
（年中無休　8:00～20:00）

買い物するなら地元の商店街で
Going shopping? Visit our shopping streets.

刊行物発行番号 2025076-1235